

令和2年度



令和3年3月



右田中学校だより

防府市立右田中学校

TEL 22-0984

全校生徒388名

### 第74回卒業式～118名の巣立ちのとき

3月11日（木）、3年生118名が、義務教育9年間の全課程を修了して、卒業しました。今年度は、運動会や選手権大会、各種コンクールなどが中止となる中、毎日登校して友達と会えることがうれしかったり、手づくりの行事に楽しみを見いだしたりした1年間でした。そうした中であって、3年生は、生徒会スローガンを「飛翔～さらなる高みへ」と定め、日常生活の行動のレベルアップをめざしてきました。



式には、来賓として、池田豊防府市長、山本純也学校教育課長、本校学校運営協議会委員等の皆様にご来場いただきました。手指消毒や座席の間隔を空けるなどの配慮をし、シンプル、かつ心を込めた卒業式で、卒業生を送り出すことができました。

卒業記念品として、昇降口に設置する大型時計が贈呈されました。毎日の登校時に、全校生徒がこの時計を見て、時間どおりに登校できたことを確認し、安心することと思います。右田中学生とともに時を刻んでいく時計を、末永く大切に使用させていただきます。また、JAグループ山口様から、学級にそれぞれ1つずつ生花のフラワーアレンジメントを寄贈していただきました。お陰様で明るく華やかに卒業を迎えることができました。

今年度末で、本校卒業生の総数は1万1458名となります。

### 卒業生を送る会

3月10日（水）、卒業式に先立って、1・2年生が、卒業生を送る会を開きました。3年間の思い出をスライドやビデオで振り返りました。入学したての中学校1年生当時の思い出写真と比べ、急に大人っぽくなっていることに、みんなびっくりしていました。転任された元担任・副担任の先生方からも、応援と祝福のビデオメッセージをいただきました。



今年は、コロナウイルス感染防止のため、1年生は卒業式に参列しません。この送る会では在校生全員で、卒業生への思いを込め、合唱「時を越えて」を贈りました。（♪君の夢が一つかなおうとしているね 熱い思い重ねてたどり着いた場所・・・）



### 1年生キャリア・ワークショップ

3月5日（金）、1年生全員を対象にキャリア・ワークショップ2回目を実施しました。2月実施の第1回目に引き続き、国際コーチング連盟ACC認定コーチの桑原奈緒子さんから、「一日を良い気分スタートする方法」「ほめ上手、ほめられ上手になる方法」「脳の特徴を生かす方法」などについて、アドバイスをいただきました。



「人の脳は、危険を察知するために、不完全なところやできていないことに注目しがちです。上手くいったことや、うれしかったことを見つけて、人に話すと自信がもてます。」  
「未来のことでもリアルにイメージできると、脳は本当に起こった事だと勘違いする性質があります。自分は将来成功すると信じる方が得です。」とのお話でした。

## 卒業式校長式辞

右田ヶ岳から吹く風に、春の気配を感じる今日、こうして、卒業証書授与式が挙行できますことを、皆さんと共に、喜びたいと思います。

また本日は来賓として、防府市長 池田豊様、防府市教育委員会学校教育課長 山本純也様他、地域の関係者の皆様に、おいでいただきました。厚くお礼申し上げます。

さて、只今、晴れて卒業証書を手にした、118名の皆さん、卒業おめでとうございます。

皆さんは、新型コロナへの対応で、予期しないできごとが続く中、じっと耐え、新しいアイデアを出しながら、なにげない毎日を、笑顔に替えてくれました。そうした皆さんの苦労をねぎらい、門出を祝福したいという気持ちは、例年以上に高まったように思います。

今、私たちは、時代の大きな節目に立っています。それは、令和への改元や、オリンピックと言った、目に見える変化だけではありません。生活や社会のしくみが変わるといった、本質的な節目です。皆さんが人生を振り返る時、「私の中3の時に、コロナショックがあっただね。」と語る日がきっと来ると思います。

今日は、時代の節目に生きた人の教訓を紹介します。時は、今からおよそ150年前、江戸から明治へと、時代が変わろうとしている頃です。黒船が日本にやってきて、10年後、日本の物価は2倍近く値上がりします。人々は、その原因を、開国のせいだと信じて、関門海峡を通る外国船を打ち払う、という行動に出ました。目の前の狭い海峡を歩いていく船に大砲を撃ち込めば、きっと命中し、恐れて来なくなると思ったのでしょうか。ところが、おこった外国4カ国は、下関を攻撃して、あっという間に砲台を占領してしまいます。

長い平和の後にやってきた、初めての対外戦争です。ふるさとのピンチを守るため、武士だけでなく、一般庶民も軍団を編制して、防衛に協力しました。その一つが奇兵隊です。奇兵隊は、この戦いで、これまでに経験したことのない、攻撃にさらされます。それは、敵が、いろいろな方向から攻撃してくる、ということでした。普通、戦いと言えば、指揮官が命令して、一斉に攻撃する、というパターンを思い浮かべると思います。しかし、この時、敵の兵士は数人のグループに分かれ、それぞれの判断で、移動しながら攻撃をしかけ、下関砲台を占領したのです。これを、「兵を分散する」と書いて、散兵戦術と呼んでいます。当時、ヨーロッパの実戦から編み出された戦術でした。

奇兵隊は、この敗戦に教訓を得て、一人ひとりの兵士がそれぞれに判断して攻撃する、というトレーニングを始めます。翌年、美祢市の大田で、奇兵隊300人は、3千人の藩の正規軍と向き合います。相手の10分の1の兵力しかない奇兵隊は、散兵戦術をとって、この戦いに勝利しました。幕府を倒して、新政府を作る、という長州藩の方針が決まった瞬間です。私のひいおじいちゃんの弟の佐伯多三郎は、奇兵隊士としてこの戦いに参戦し、わずか17歳で命を落としました。

この昔物語から、私は、大きな教訓を学びました。それは、始めに失敗を経験した者こそ、それをチャンスに変えて、次のピンチを最初に乗り越えることができる、ということです。奇兵隊は、外国船を攻撃するという無謀な行動によって、自分の弱さを思い知りました。その結果、これまでの戦いではタブーであった、自分で判断して行動するという新たなトレーニングを実行しました。だからこそ、多勢に無勢の、普通に考えれば勝てるはずのない戦いに勝利することができたのです。

私たちも、今、コロナウイルスという、目に見えない敵と戦っています。今まで、当たり前だと思っていたことが通用しない、なんとかしなきゃ、と思う瞬間が、何度あったことでしょうか。しかし、その時その時に、アイデアを出し合い、心を込めて実行したことが、次のピンチを乗り越える力になるのです。皆さんは、その先頭を走っているトップランナーの一人です。新しい時代は、皆さんの時代だという思いを胸に、それぞれの進路に旅立って行ってください。

未来に向かって歩み出す卒業生の皆さんの人生が、輝かしいものになりますようお祈りし、式辞といたします。

※右田中学校のホームページにもアクセスしてください。

右田中学校

検索

<http://www.c-able.ne.jp/~hofumigi/>